

実質化された人・農地プラン（立石地区）

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
朝倉市	立石地区	令和3年3月31日	令和4年8月31日

1 対象地区の現状

1) 地区内の耕地面積（市農地台帳より）	197.0 ha
2) アンケートに回答した地区内の農業者の耕作面積合計	138.7 ha
3) 地区内の75歳以上の農業者の耕作面積合計（市農地台帳より）	48.5 ha…A
i) Aのうち、アンケートに回答した面積合計	28.9 ha…B
① Bのうち、後継者がいる 面積合計	14.2 ha…C
② Bのうち、後継者がいない 面積合計	14.4 ha…D
ii) Aのうち、後継者について不明の面積合計（A-C-D）	19.9 ha
4) 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積合計	6.7 ha…E
<p>（備考）※貸付け等の意向が確認された農地は、459筆、35.0haとなっている。</p> <p>・今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、75歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積の方が、7.7 ha(D-E)多く新たな農地の受け手の確保が必要。</p>	

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地であり、農地は減少傾向にある。 ・基盤整備地以外の農地は耕作の引き受け手がいない。 ・農地に入る道が狭い。 ・住宅地の周辺の農地が多く、消毒等に対する苦情もあり、農地管理が難しい。 ・後継者がいない。 ・経営規模が小さく、機械購入などの補助が受けられない農家が多い。
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備地を中心に認定農業者等に集約化していく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<ul style="list-style-type: none"> ・大規模に耕作している認定農業者と隣接地区の金川生産組合を中心に、農地利用を行う。

5 今後の地域の中心となる経営体（別紙）